

「乙巳」 草木がしなやかに伸びる様子や横へと広がっていく意味  
神様の使いとして大切にされてきた動物で、脱皮を繰り返すことから不老不死のシンボル

これまで地道に積み重ねてきた努力や準備が、いよいよ形となって現れ始める、非常に重要な年

干支暦  
一月  
2025.1  
No.476

乙巳 (きのとみ)

# MONTHLY Mitsuya

## 目次

『年頭所感』	…庄田	P.1-4
『後悔しない行動とは何か』	…菊池	P.5-6
『「強く、正しく、美しく」』	…野佐根	P.6-8
『現状から脱皮した事業所へ』	…齋藤	P.8-9
『次年度工事に向けて今できること』	…佐藤	P.10
『貼られたレッテル貼り替えよう』	…川島	P.10-11
『勇往(ゆうおう)邁進(まいしん)あるのみ』	…森	P.11-12
『妥協しない安全な現場環境作り』	…荒田	P.12-13
『はじめる勇気と続ける根気』	…大塚	P.13-14
『強い事業所を目指して』	…大宮	P.14-15
『ベストモデル集大成の年に』	…大野	P.15-16
『待ったなしの技術力の底上げ』	…成田	P.16
『Transition～考えを変える～』	…戸塚	P.17
『コンプライアンス遵守に向けて』	…人見	P.17
『2025年機械化へ前進』	…石丸	P.17-18

## 年頭所感

維新建設(株) 代表取締役社長 庄田 雅直

1/11 恒例の新年安全祈願(小山須賀神社)



維新建設社員の皆さん、ならびにミツワグループ社員の皆さん、そして、ご家族の皆様、謹んで新年のお慶びを申し上げます。9連休となった長めの年末年始休暇では、天候にも恵まれ社員の皆さんはご家族様あるいは友人と共に過ごされ大いにリフレッシュされたと思います。ちなみに、本来ならば元日の夜間にJR小山保線

技術センター様管内で「接続軌道踏切の改修工事」を施工する予定でしたが、諸般の都合により2025年度へ延期となったため結果的に全ての社員が揃って長期休暇を過ごすことができました。また、ちょうど1年前に発生した「能登半島地震」により、元日の祝賀ムードが一転するなど暗いニュースでの幕開けを思い出し、改めて平穏で厳かな新年の幕開けとなったと実感しております。

さて、新年にあたり毎年恒例ではありますが、今期の業績推移と2025年に取り組む経営計画の一部を紹介したいと思います。

■経営方針：「強く、正しく、美しく」

○経営に強い会社づくり：売上と営業利益について

・売上：2024年12月期(8ヵ月累計)

① 会社合計：940,773千円 前年同月 866,854千円 ※2022年同月 927,306千円

前年比：108.8% 8.8%増 ※2022年比 101.4% 1.4%増

② 事業所前年比：1)小山 114% 2)館林 109.6% 3)宇都宮 106.4% 4)古河 104.9%

③ 最終見込み：5.6%～9.2%増、1,421,073千円～1,469,103千円

→2023 年度実績 「1,345,537 千円」

④ 営業利益(上期 6 ヶ月) : 前年比 139.9%で推移 下期(11 月~4 月)上積み確保!

A 「安全な現場に “やり直し” と “無駄” は無し」: 事故発生が大きな損失!

B 「仕上がりの良い現場が次の利益を確保する」: 思い込み勘違いは元請社員様との密な協議と確認で撲滅させ信用を重ねる

C 「これまでの概念を変える」…安全を確保した上で①作業効率アップ→②少ない人数・機械化で工期を減らす→③1 日の出来高アップ→④現場の工夫(仮設・工具開発)で利益を増やす→⑤安定した賃金ベースアップ→⑥安定した休日の確保

・2025 年度(2025 年 4 月~2026 年 3 月)の動向

① JR 東日本様 : 2031 年度「新幹線大規模改修」に向けて、2030 年度までは在来線の強化に伴い工事量は増加傾向(USP マクラギ交換、レール交換、道床交換)

土技セ→新幹線橋脚の耐震補強、ホームドア、軌陸高所作業など土木工事量が増加

② 東武鉄道様 : 杉戸・館林・野田・栃木など受注エリアが拡大傾向

③ ユニオン建設様 : 墜落防止強化期間 1/15~2/28 「一瞬たりとも無胴綱にならない」

④ 大規模プロジェクト工事や新規参入工事に総力戦体制で取り組む

→有資格者・重機・軌陸車・大型車・器材など Web 会議で調整…成田担当所長

1) 古利根橋梁切替 5/4(日)夜 230 名…全事業所 ※次回は 2028 年度 GW、2029 年度 GW

2) 春日部駅高架化切替 9/27(土)夜 28(日)夜 10/4(土)夜 5(日)夜 120 名…全事業所

3) 幹線・のり面耐震補強・ホームドア・軌陸高所作業…古河、小山

4) 接続軌道工事(交換・扛上)全交換 : ①川俣駅(館林)②小金井駅第一結城(小山)

5) 新型自走式レール交換機の運用に向けた取り組み…小山、宇都宮

6) 日光線・武子川橋梁架け替え工事…宇都宮

7) 北海道新幹線札幌延伸…2026 年度着手?

⑤ 機械に強い会社づくり : オペレーターの増員、月次点検と異常時対応力を強化

1) オペレーターの育成・増員→最低でも所有機械数×2 人は操作者が必要

→特殊アタッチメントも含めたオペレーターのスキルアップと増員を

・6/2 小山 「クローラー走行で後進時に防護していた地上子カバーを失念・破損」

2) 社員の機械整備スキルアップ→月次点検と軽微な修理は事業所対応が当たり前

→BH の月次点検は定着、軌陸クレーン・軌陸ダンプ・軌陸高所作業車の月次を定着する

3) グラップリングバケット、跳ね上げ式 4 頭 TT、道床カッター、LHV、大割機、ブレーカーなど特殊アタッチメントを活用した施工提案

4) 10・3 t トロ、くるくるダンプ 5 t、フォークリフトを活用した施工提案

・8/28 宇都宮 「軌陸クレ+3 t トロ 3 台にてレール運搬中に知識不足で油漏れ」

5) 重機の投資…4 月 PC58-6 #3150(館林)

・PC58-3 #1618 と入れ替え→汎用機へ仕様変更



## ○安全に強い会社づくり

①2024年に続き「管理者も元請け会社、作業の責任者も協力会社」とくに協力会社の軌工管・工管はデジタル処理のスキルアップがこれまで以上に求められる。さらに線閉責任者の育成も求められる→小山・宇都宮にて要請あり南越谷では当たり前

- 1) ①を踏まえ、新たな作業責任者・作業指揮者の育成も重要である。現場の調査で「保安体制、施工方法、工程、仕上り不安要素、メンバー・機械の選定」など、責任者らのミニ施工検討会により画像・動画・ハザードマップのデータを活用しながら想像力を鍛え、経験の浅い責任者たちを磨き上げ事業所の技術レベルを底上げする
  - 2) 軌工管・工管は「施工計画、安全計画、安全管理、品質管理」の最高責任者であることを発注者様は求めているので、さらなる勉強と経験が必要となるため専任化はマストと考える。これにより、時には軌工管・工管が経験の浅い作業責任者の業務をフォローするといった現在での状況を改善する
  - 3) 打合せや計画書と異なる状況となった場合は、ただちに作業を中断・中止の判断を行い元請け会社様へ報告・連絡・相談を、またトラブル発生を認めた場合は速やかに列車防護・SBS・消防・警察・指令へ報告ができる管理者・責任者を育成する
- ② 見逃さない現場調査と施工計画書の作成が出来る責任者を増やす
- 1) 現場調査の映像化と想像力の強化→所長・副所長と担当者らのミニ施工検討会
    - ・ 8/22 小山「分岐器3点セット交換で施工前の高低変位を考慮せず施工を中断」
    - ・ 11/7 館林「許可済の私有地にパッカー車を後進させ浄化槽の蓋へ乗り上げ破損」
  - 2) エリアマップを事業所の財産にする→社員のスマホでエリアデータを閲覧可能に
  - 3) 事業所内の共有フォルダを活用して施工計画書のイン・アウトプット化が可能に
  - 4) 維新ドックの施工動画を増やす(本社・事業所)。施工方法の想像ヒントに活用する
  - 5) 電子黒板を活用した出発点呼の回数、対象現場を増やす
    - ・ 9/19 古河「4tユニックから大型回送車へPC板を積み替え中に街灯線を切断」
- ③ 仮設設備・安全装備品・器具工具の整備に取り組み働く社員を守る
- 1) 開口部廻りの対策、昇降設備の設置、ガードマン、工事看板、電飾表示灯、照明
  - 2) 現場調査時に支障物や構造物の撤去および明示化にひと手間かける
    - ・ 10/6 宇都宮「草が覆いかぶさった固定式列警の配線を失念して手鎌で切断」
    - ・ 10/24 小山「草が覆い茂るエリアをイタチ歩きの列見がつる草に滑り右膝挫傷」
    - ・ 12/21 小山「枯草が覆い茂る基地線にてレール切断による火の粉で火災が発生」
  - 3) 防護カバー、メガネ、マスク、チェーンソーや草刈り機など回転への防護措置

・9/8 宇都宮「先刈りで使用した手鎌による右脛切創」

4) 暑さ対策におけるテント、冷やす取り組みや厳寒期のヒーターなど現場環境を改善

・10/7 宇都宮「鉄マクラギ交換でファン付きベストの未着用により熱中症搬送」

5) ワイヤー・スリング・ロープなど劣化により重大な労災となる道具の点検・交換

・8/2 小山「PC マクラギ引抜きにロープを使用したところ破断して後方へ転倒」

### ○仕事に強い組織づくり：技術力の継承と向上および開発の取組み

① 各事業所の社員数を現行より5名増やす→現在は101名 ※昨年は96名

② 平均年齢を40歳未満とする→現在は45.5歳 ※昨年は45.4歳

③ 定期的に様々なテーマの技術研修を事業所で実践する…菊池次長、成田担当所長  
→新人社員研修、技術研修会(出直し教育)、リスクリング(土木分野：大塚所長)

④ オペレーター育成へ様々な操作訓練を集中実践…川島所長・石丸課長

⑤ 工具の開発や新しい施工方法を多くの閃きと検証に取り組む…大野所長、齋藤所長  
→脱トンパック、バッテリー工具、鉄道技術展をテーマに取り組む

⑥ スキルアップの成果を高く評価→賃金アップと賞与

### ○正しい会社づくり：コンプライアンス・その他の取組みについて

① 働き方改革として有給休暇の取得および4週6休に取り組む

② 勤務指定表の進化にて超勤時間：月45時間/年360時間以内の労働時間で管理する

③ 勤務指定表のデジタル配信により社員がスマートフォンで閲覧できるよう新たなシステムの導入に取り組む

④ 所長、副所長が主導する現行の従業員会議(月1回)を、若手社員らが主導権を持って企画開催する従業員会議へ変更するなど、新たな会議スタイルのモデルケースと若手リーダーの発掘に取り組む

⑤ 医適2・3種、10条教育、軌工管・工管・軌作責研修、資格継続講習、年3回の休み明け事故防止会議などの受講失念を撲滅する

⑥ 建設技能資格、有機溶剤・化学物質の取り扱いに必要な資格などの取得と資格者の配置

⑦ 年2回の個人面談と現場パトロールを通じて「ハラスメント防止」の指導を強化する

⑧ インフルエンザ予防接種、年2回の健康診断+オプション費用範囲を拡充する

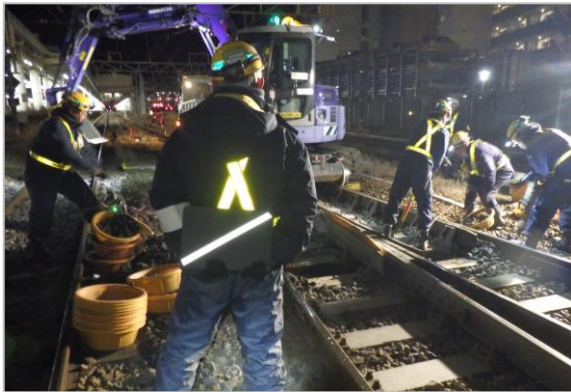
以上が、2025年に取り組む経営計画の一部となります。

最後になりますが、今年の干支は乙巳(きのとみ)にあたり、調べると「再生や変化を繰り返しながら柔軟に発展していく」年だそうです。今年の経営計画は、昨年の反省を踏まえ“より強い会社づくり”を高める計画にしています。また、今年から策定した計画に対してモニタリングに取り組む体制の構築を考えています。そこで、4事業所の中心に位置する“小山事業所”に強力なリーダーを集め、人材育成の指導やモニタリングが行える部門を設置する予定です。今年の干支にちなみ、組織の再生と変化を求めながら社員一人ひとりの能力向上が会社の発展となり社員の皆さんにとっても豊かな年となるよう、今年も頑張っていきたいと思います。

## 後悔しない行動とは何か

次長 菊池 純一

▶  
1/8  
夜  
宇都宮駅構内の  
分岐器道床入替パトロール



次試験を受けました。そしてその結果は…

2024年は様々な事故やケガ（労災事故）がありました。8、9、10月は3ヵ月連続して労災事故が発生しましたが、幸いなことに怪我の程度は酷くなく、不休労災扱いで済みました。たまたま運が良かっただけで、当たり所が悪ければもしかしたら最悪の事態も考えられる傷害事故もありました。怪我をした社員の方は身体的な痛みとは違う痛みも経験したと思います。労災事故以外にも、重機の油漏れや交通事故が数件発生しました。年間を通じてみると事故や怪我の半分は昼作業に多く発生しています。昼作業だからと言って気を抜いたとは思いませんが、しかし、なかには基地線の作業で列車影響も触車もない場所だから…、事業所の敷地内だから…という思いから、省略行為や手抜き作業を行ってしまうことは誰しものが一度や二度、もしくは毎回行う人も少なからず一定数います。過去に事故や怪我が発生し急遽社員を集めて緊急事故防止会議を開催して社員に周知指導を行っても残念ながら事故怪我が1件も発生しなかった年はありませんでした。緊急の事故防止会議を開催した後、のど元過ぎれば何とかではありませんが2~3ヵ月後にはまた事故事象を発生させた年もありました。自分がケガをして痛い思いをしていない、自分の現場じゃない、自分はそんな事故は起こさない、その場で謝ればあとは所長が何とかしてくれる…こんな思いの社員が一人でもいるとしたら、いつまでたっても「事故ゼロ」が達成されないんだと私自身つくづく思います。

昨年の春先（年度初め）だと思いますが某映画の中で「事件は会議室ではなく現場で起きているんだ」みたいなセリフを言う映画を見ました。事故ゼロを達成するにはどうしたらいいのか漠然と考えていた時にこのセリフを聞きました。いくら事故防止会議を開催しても、心に響かない人が複数人いるのであれば昼夜関係なく現場を見に行ったほうがいいんじゃないのかなと、その時は漠然とですが少し思いました。しかし、現場に出向くと露骨に嫌な顔をする社員もいることからその時に思いついたことはそこで終わってしまいました。8月に入り維新建設の中で事故やケガが頻繁に発生するようになり春先に考えていたことを思い出し実行しようと思った矢先、社長から助言をいただき背中を押される形で現場に行き注意指導を行ってきました。現場に行ってみて感じたことは、宇都宮や小山でもそうですが明確なルール違反、ヤ



有化、会議等への安全関係資料の提出と内容周知、コンプライアンス面では業務内容や関係映像等の SNS 等への流失防止の注意喚起及び、パソコンパスワードの第三者知徳の関する注意喚起と管理方法の指導です。実施できなかった点は、小山事業所及び宇都宮事業所以外の安パトの実施、A 点呼での電子黒板活用拡大推奨への取り組みです。また、メープルでの保安打ち合わせ票作成時における作業場所、作業内容、線路閉鎖間合等の入力行数など増行についてのシステム改修は、JR 様に確認したところ膨大な改修費を含め現時点では困難とのことでした。

次に、国内において気になりましたことを何点か述べますと、上越、北陸新幹線の架線トラブルで運休、鉄道会社数社での車輪組立におけるデータ改ざんなどの不正、自動車メーカー数社の性能試験における不正、サプリメントでの健康被害、政治資金パーティー問題で党処分や逮捕などは信用を大きく失い、一度なくした信用を取り戻すのは容易な事ではありません。社長の掲げられた、「強く・正しく・美しく」に反する事象です。この様なネガティブな中においても、パリ五輪の日本最多メダル獲得、MLB、O 選手の 50-50 達成と二年続けての MVP 獲得、日本探査機の月への初着陸、北陸新幹線の金沢敦賀間延伸開業などは明るく元気づけられるニュースとなりました。

ここで、2025 年の建設業界についてふれますが、厚生労働省によると、高齢者人口は人口全体の 30% に達しすると発表されています。そして、現在の高齢者の退職が進みますので、ますます建設業の人手不足に拍車がかかることとなります。人手不足を別角度からみますと、長時間労働状態化、若者の建設業への興味の薄れ、アナログ管理、労働環境改善不足や遅れが指摘され、これらに対処すべく「人材雇用の促進」、「機械化促進など労働環境改善」、「システム導入による省人化」等が主に取り組むべきこととされています。

さて、本年、1 月 11 日の賀詞交歓会において庄田社長より、「強く・正しく・美しく」との経営方針が発表されました。各事業所及び社員の皆様は、これらを基本に是非、一つでも二つでも結構ですので目標を設定し着実に取り組んで下さい。昨年 12 月には JR 東日本代表取締役社長、喜勢陽一様から各社代表取締役社長宛に、「事業運営における安全確保について」、お客さま・地域の皆さま及び社員の身体に係る被害（怪我、体調不良）の防止と、災害等発生時における安全確保にグループ全体で万全を期すため、1 お客さま・地域の皆さま及び社員の身体に係る被害（怪我、体調不良）に繋がる設備、環境の確保（エスカレーター、段差、衛生状況など）、2 火災や災害発生時における「お客さま・従業員」の迅速な避難誘導における役割・方法の再確認、3 異常時における情報連絡体制の再確認にいて、社員への安全の重要性や取組の周知のご依頼があり、昨年 12 月の責任者会議で周知されましたが、必要により今一度、確認して下さい。JR 東日本様、ユニオン建設様のトッププライオリーである「安全」、ユニオン建設様の安全合言葉である「安全はすべてに優先する」、「定められたことを正しく行う」は基本の「キ」であり大前提です。また、労安法、労基法、安衛則、建設業法など国の法律は当然ながら、JR 東日本大宮支社様の触車事故防止手引、軌道工事標準仕様書、ユニオン建設様の安全マネジメント及び、安全の 3 本柱+2(特に主要 3 ルール)の遵守が重要であることは言うまで



もありません。

これらを踏まえ、安全第一、とくに社長の言われる通り、保安体制でのエラーは「ゼロ」で行きましょう。そして社会のインフラを担っているという自信と誇りを持って、事故、輸送障害を起こし発注者様、元請者様、お客様にご迷惑をお掛けしない、仕事を止めない、メンテナンス体制の変化する環境に即応することが重要であり、プロフェッショナルの証です。社長の経営方針に万分の一でも近づくため、魅力ある働き甲斐のある会社にするため、安全パトロールの強化、AB 点呼の充実、保安 3 点セット整合性確認の継続、気づきの共有化と進言、各資料の共有化、気掛かり箇所の抽出と進言など継続するものは継続し、安全や技術力のレベルアップに貢献いたします。また、仕事をさせていただく上で、現在、JR 東日本様、東武鉄道様、ユニオン建設様、河本工業様、自社の多くのルールがあります。これらの多くは過去の事故からの成り立ちで変えられないものがありますが、現状にそぐわないもの、省いても差し支えないもの等ルールのスリム化も必要と考えます。これらを検証確認し進言出来るような維新建設に、社員になるよう皆さまと共に取り組んでまいります。

国内においてはコロナ、インフルエンザの再流行、中国での新しい感染症拡大は既に国内でも感染者がおり、日本でも拡大が懸念され不安な状況です。政治においては新内閣発足も少数与党の状況となり、政治の激動期を迎え国家の新しい方向性が模索されている様にも思えます。海の向こうアメリカでは前大統領が再び大統領に就任される見込みであり、世情が急速に変貌する可能性があります。この様な状況ではありますが、皆様とご家族の健康と和合と、そして幸せと、一層の維新建設の発展のため、一步先を見据え着実に邁進してまいります。

## 現状から脱皮した事業所へ

小山事業所 所長 齋藤 忍

▶  
1/6  
仕事始め  
小山メンバー



昨年のベストモデルからまずは KY 活動の充実について振り返ってみます。現場の立地や状況、または行う作業を想像して KY を抽出できましたか？残念ながらまだまだ私が想像していたレベルには達してはいません。

確かにレベルが上がったとは思いますが、まだまだ定型文を使用した KY の抽出が行われているのが現状です。だからと言って昨年起きた 2 件の傷害事故が発生したとは考えていませんが、危機意識が低いのでは？と感じずにはられません。KY で 100% 事故防止になるとは思ってはいませんが、仕事始めに少しでも現場や作業内容を想像することが事故防止の第一歩なのだ







## 次年度工事に向けて今出来ること

小山事業所 副所長 佐藤 卓弥

▶ 4台のモニターを活用して  
朝礼を執行する齋藤所長



昨年を振り返りますと 6 月の地上子破損から始まり、8 月には立て続けに 3 件の事故・事象を起こし 10 月には現場の特情を把握しきれず社員にケガをさせていただきました。そして、12 月には長期休暇前に材料線にてレール加工中に小火を起こし数々の不甲斐ない結果を出してしまいました。あと一步、安全

方に舵を切っていればもしかしたら事前に防げたかもしれない事故・事象が多々ありました。施工数量を増やす事や働き方改革の促進なども私の仕事ですが今回の事で働く社員達が安全な環境で仕事ができるようにする事も私の仕事だと痛感いたしました。私がもう少し現場の事に対して気付きが出来れば事故・事象を防げたかもしれないと悔いる年でした。一日でも早く原因を追究して社員達の働く環境を整えるために今年から新たに改良を加えた取り組みを紹介します。

最初にリスクの低減や現場のイメージ化をするには現場を知ることだと思い、行われている現場調査を改良して『調査の細分化』を行います。これまでは決められたメンバーが調査を行っていましたが数をこなしていくとマンネリとなってしまうリスクを見落としてしまう場合があると考えます。そこで修繕箇所と機械箇所の二つに分けるよう考えました。修繕箇所については今まで通りの調査を行い、機械箇所については普段から重機オペ、誘導員が調査を行います。重機を使用して施工するために機械の選定、現場での施工方法、リスクの発見、変化点など専門的な目を見て、肌で感じて調査を行い施工前 MT や工程会議の時にユニオン建設様や JR 様に私達から率先して提案が出来るように考えています。また、調査結果で上がった内容を材料にして施工当日前に仮設足場の設置や器材搬入等を事前に行ったりして現場の環境を改善していきます。さらに私は皆で選定して作り上げた調査の報告が確実に社員達へ伝わるよう電子黒板や情報モニターへ少しでも早く表示して情報の共有を行っていきます。

## 貼られたレッテル貼り替えよう

宇都宮事業所 所長 川島 健路

▶ 1/6  
仕事始め宇都宮メンバー



2025 年・巳年『今年は何も事故や怪我を起こさない!』この目標を達成するために、苦手なことから脱皮できる様、所員みんなでいろん

なことを正して取り組んで行きましょう。昨年は重機トラブルやウツカリ事象、防げた怪我や熱中症などあらゆる事柄が年間通して発生しました。この緊急事態に維新建設全体から心配を頂き、我々宇都宮事業所の膿を取り除こう！と、動いてもらいました。「宇都宮は忘れ物とかルール無視が多いね」「声かけ合い運動なんだから返事しなきゃ独り言だよ」をはじめ、多くの貴重な気づきや意見をもらいました。10月の熱中症発生以来、事故怪我が起きていないのは偶然・・・と言われない強い事業所を継続するため、今こそ①その場しのぎで危険と知っての仕事をして②些細なことに気づいて声を出そう！③「〇〇が壊れてました」で終わらずに、修繕や入れ替えして安全に仕事をしよう！④無駄な経費（失費）と安全に費やすための経費（投資）にメリハリをつけて提案を！正直、『自らの責任』とは言え、あれこれ言われて悔しいと思っています。みんな現場で汗を流して頑張っているのに、トラブル・怪我・・・もったいない！弱点もありますが、強いところもちろんたくさんあります。指導不足と言われればそれまでですが、いつかの従業員会議で述べたとおり、我々宇都宮メンバーは少々壊れていても・修繕が必要でも、それを知っていてもなんとかやってしまうのが悪い癖だったのだと思います。皆さんの要望を100%クリアするには時間を要しますが、優先順位をつけて職場を安全に変えていく思いでいっぱいです。意識を変えることで改善できることもたくさんあります。物忘れで言えば、出発点呼を充実させて責任者はこと細かく説明し、出発時の器具点検で「今日は締結装置が〇〇で・・・」と、ひとこと言うだけで必要な物が無いことに気づく現場も出てきました。保安器具を忘れないために員数表を見直したり、服装の整正で装備品を確認するようになったり。こう言う基礎的な向上心は仕事全体を変化させることに直結すると思っています。整備士育成プロジェクトが発展したおかげで、気づきによる提案や声かけが増えただけでなく、はっきりと「このままでは線路上で作業できません」と発言してくれるように成長しました。間違いなく、安全のレベルは向上しています！今後、小さなことや今さら言えないことも全部出して事業所を活気づけて盛り上げていきましょう。大小あるルールを守る、同じ失敗もやるべきことをやって発生させてしまう分には説明もつきます。あとで後悔しないように、前向きに風土改革を進めましょう！

## 勇往(ゆうおう)邁進(まいしん)あるのみ

宇都宮事業所 副所長 森 和大

▶ 軌工管と線閉責任者を兼務しながら線閉手続きを行う森副所長



2024年の自事業所で起きた事象を振り返りますと重機関係2件、労災事故2件、交通事故1件、作業トラブル2件が起き計7件とここ数年では一番事象を起こしてしまった年になってしまいました。昨年の社報には強い意気込みと無事故の目標を立てましたが散々たる結果を残してしまい、非常に悔しい一年となってしまいました。この危機的状況



を打開するため、菊池次長には昼夜問わず宇都宮に来ていただき、日々私たちの目が届かない所や現状の弱い部分をご指導いただき非常に助けられ感謝の気持ちでいっぱいです。

さて、2025年を迎えて私が考えていることを述べたいと思います。

### ●「安全な現場に“やり直し”と“無駄”は無し」ということ

2024年は上記の計7件という事象を起こし、これらを事業所として重くとらえまだまだ宇都宮事業所は成長過程にいるなど実感いたしました。誰もが事故事象を起こしたくて起こしているわけではないのは重々承知です。現場での確認不足や周囲への声かけ、気配りなどがあと一歩足らずに起きてしまったと思っています。事故を発生させてしまうと会社として大きな損失が出てしまいます。また多くの労力や新しい対策を立て、必要により物を購入するなど無駄な出費も出てしまい、最終的には自分たちが貰えるはずだった給与面にも影響を及ぼすということを今一度頭に叩き込み、日々の【気づき、気配り、声かけ】を徹底した1年にしたいと考えています。そのためには私だけの力じゃどうしようもできません。社員一人一人が強い意識と緊張感をもって日々の作業に従事してもらいたいと思います。

### ●宇都宮社員の更なる作業の視野拡大する

昨年からの進歩というやはり『線閉責任者』を2名が取得し、現在は軌工管と線閉兼務で従事し維新建設単体で現場をこなしていることです。仕上がりの絡まない作業ではありますがユニオン建設様の勤務の緩和や宇都宮の売りに大いに貢献していると思っています。そして、近年の状況から課題や今後の理想が膨らみ更に上を目指していこうと思っています。そこで2025年は線閉責任者の増員や検修責任者の新規取得、また安全専任管理者の登録を進めてもらいたいと思っています。こう思った理由は、障検を停止しなければならない作業に関し、安専を持っていない私たちはどうしてもユニオン建設社員様に出てもらうしかありません。これを打開するためには安全専任管理者の登録を進めてもらい、【軌工管、線閉(安専兼務)、軌作責⇒オール維新】の体制を構築できるようにしていきたいと考えています。もう一つ目指すことは検修責任者です。私が検修の手元作業に従事した時、ユニオン建設社員様に「このくらいの検修だったら維新さんをお願いしたいんだよね」と言われたことがありました。現に線閉責任者は2名いるので資格と知識さえあれば従事可能です。したがって、今年はこれらの体制が自事業所でとれるように進化していきたいと思います。

## 妥協しない安全な現場環境作り

宇都宮事業所 副所長 荒田 智弘

昨年の年明けは1月1日に能登半島地震、1月2日には航空機事故と年始早々に大変な出来事(自然災害・重大事故)がありました。報道でしかわかりませんが、能登半島地震の復旧作業は人手不足でまだ見通しがたたずと聞いております。普段通り生活できている我々は本当に幸せです。今年は穏やかなスタートとなりリフレッシュできたかと思います。

2024年を振り返り7件の事故・事象を発生させてしまいました。BHの油漏れ事象2件、不





休労災1件、熱中症1件、車両事故1件、その他2件と連続して発生させてしまい、急遽、菊池次長が毎日足を運んでくださり現場のパトロールで感じたことを助言いただき今日に至ります。今では以前よりも声かけ合い運動の活発化『妥協せずしっかり仕事をする』習慣が身についてきたかと実感しています。今年はさらに安全な作業を実践するために事業所一丸となって取組みましょう。

## ベストモデルに掲げた『施工性向上への挑戦』2年目

- ① 前年の機械施工実績に対し改善点を盛り込み実行する  
前年実績を上回ることが必要不可欠になりますが、働き方改革の推進のため実稼働日数が減る見込みとなっていくと思いますがどう売上を伸ばしていくかが課題となります
- ② 検討した機械・人で作業し実績向上10%を目指す  
実績向上10%を積み重ねていくのは各責任者の意識が必要です
- ③ 仕事の仕方  
今までの概念を捨てて条件・環境に応じて施工方法を考えること
- ④ 月間工程表をもとに事業所内で検討会を開催し工事を事業所全体で組み上げ週間工程に反映させる。月1回軌作責会議を開き月間工程を周知し前もって現場を把握していく
- ⑤ 所内での検討を現場に落とし込みタイムスケジュールと仕上り値異常時の対応、それを鑑みた中止判断の時刻を紐付け、前回作業の前例を反映させた施工前ミーティングを行う  
責任者は安全に施工するのはもちろんのこと、利益を捻出するために作業時間が短くなってしまった場合に施工するのか、中止にして仕切り直すのかの判断が重要となります。施工前ミーティングにて中止の判断条件も打ち合わせしましょう。安全な職場を構築するには、みんなの『気づき声かけ』が必要不可欠です。まずは3月末まで無事故・無災害で施工できるよう、それぞれの役割をしっかりと果たしましょう。

## はじめる勇気と続ける根気

古河事業所 所長 大塚 健治



寒さ厳しき折、夜間作業お疲れ様です。2025年は「技術」を向上させて「現場の安全」と「施工計画書通りの仕上がり」を古河事業所は目指していきます。

1. 工事管理者・作業責任者の施工方法の認識を統一

現場施工にあたり「現場調査」から「材料・仕様書の理解」「施工の工程」「基準・許容値」を理解して現場に臨みます。必ず施工前に全従事員へ周知・事業所検討会を開催し明確な指示が出せるようにします

## 2. 重機・高作車・使用機械のオペレーション技術を向上させる

常に上達を目指し、自社他社を問わず動画視聴を取り込みます。一般土木に於いても様々な動画が上がっているので、取り込める技術はもれなく取り込みます。また機械も進歩しているので、他社で使用している物は精査して使用を試みます。技術力が伴いますので「訓練・理解度」を高めて現場に投入します

## 3. 安全対策の推進

- ・車両の運転（運転手の途中交代）ルート確認や駐車場の場所まで点呼で周知
- ・立ち入り箇所の段差（階段）や照明の必要性を現場ごとに確認
- ・「保安体制」「線路閉鎖」「保安要員の選定（駐車時に交通整理員が必要か否かなど）」を施工前にユニオン建設担当者様と必ず打合せて漏れを無くす
- ・安全装備品「墜落制止用器具」「ロリップ」「チャップス」の始業前機能確認を行う
- ・「人は忘れる」「機械は壊れる」を常に忘れず、異常時対応訓練は欠かさない

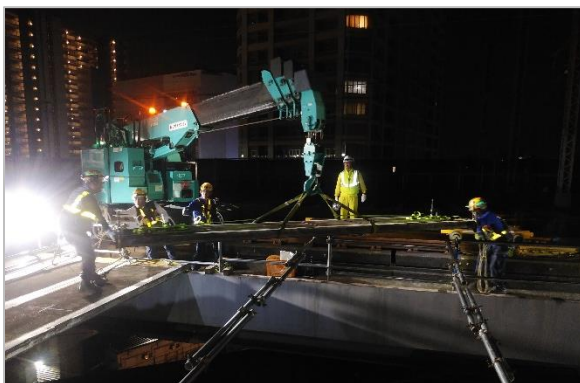
A；当たり前的事を B；ぼんやりとせず C；ちゃんと実行して 信用を積み重ねます。とくに新しく取り組む施工があります。「ホームドア設置」に関して、知識不足は否めないため「他社」に赴き、不明確な要素を少しでも取り除き現場施工に臨む所存です。

最後に、去年は新たな取組として「従業員会議の進行・資料作成」「週間番割」「出張所様からの集計表取りまとめ・提出」「宿舍改善」など小集団（とくにGリーダー）にお願いした結果、予想以上の成果が上げられとても嬉しく感じました。今後も共に盛り上げていきましょう。

## 強い事業所を目指して

古河事業所 担当所長 大宮 勇司

地上20m 埼京線高架上で劣化したPC板を撤去



昨年を振り返ると、安全面では1月・2月と続けて自社内での車両接触事故を起こし9月にはPC板撤去工事にて4t ユニックから大型回送車へPC板を積み替え中に街灯線を切断してしまいました。今後も事業所で立てた対策を愚直に守り事故事象・交通事故をなくすようにみんなで取り組んでいきましょう。次に

売上ですが、5月～12月までの8ヵ月で前年比105%と上回ってはいるものの、売り上げ目標においては55%と目標達成には厳しい数字となっております。今年度も残すところあと4ヵ月ほどとなってしまいましたが、少しでも目標に近づけるよう全員で努力していきましょう。

それでは今年目標に入りますが、引き続き会社の経営方針である「強く、正しく、美しい会社」を念頭に置いて“強い会社”の構築に努めていきたいと思ひます。経営面では、売り上げ目標を達成するために年間通しての仕事の確保はもちろんです、まずは安全な現場・仕上りの良い現場を最優先で考えた上で機械化などにより作業効率を上げていきたいと思ひます。安全面では、昨年同様に工事管理者は施工計画・安全計画・安全管理・品質管理すべての最高責任者であることが求められるため、新しく工事管理者を取得した2名を含め今年も勉強と経験をしっかりと積み重ねレベルアップに取り組んでいきましょう。次に機械に強い会社作りですが、古河事業所では高所作業車のオペレーターは毎年増えてきていますが、BH・軌陸クレーンのオペレーターに関しては使用現場数が少ないこともあり増員できていないのが現状です。機械整備のスキルアップも合わせて2名以上は育成していきたいと考えております。

最後になりますが、今年耐震補強工事・高所作業車使用工事・立坑新設工事・PC板撤去工事に加え7月頃からホームドア工事も始まります。高齢化対策・働き方改革・若手リーダーの育成など、やらなければならないことがたくさんありますが大塚所長を筆頭に強い古河事業所をつくっていくため自分も年齢に負けず頑張っていきますので皆さん協力をお願いします。

## ベストモデル集大成の年に

館林事業所 所長 大野 周平

▶  
1/6  
仕事始め  
館林メンバー



昨年度は、春日部駅高架化切替、休泊川橋梁切替、古利根橋梁切替と大型工事を無事に成功することが出来ました。携わっていただいた社員の皆様に感謝します。少し振り返ると、館林事業所の弱い所が浮き彫りになった年でもありました。作業指揮者、中堅社員の声出しです。館林事業所の指揮

者、中堅社員の技術力は、どこに出ても恥ずかしくないものを持っていますが、声出しが極端に少なく、各個人が淡々と作業をこなすといった現場が多いと思ひます。軌道工事は一人で作業出来るものではなく、多人数で力を合わせ、効率良く作業をするものだと思ひています。現場の長が一人であれもこれと見るのは限界があり、二本線を被っている社員、中堅社員が自ら判断し、声を出していかなければならないのです。働き方改革を進めるなかで、休日を増やす、収入を増やすには仕事を多く受注することは大前提ですが、出来高を上げることが必須なのです。では、どうやって出来高を上げるのか？従来通りの施工を取り入れながら、重機作業を交えて工具の開発をしていくこと、一人ひとりの能力を上げること、新しい分野に挑戦していくことだと思ひています。その中で、接続軌道を館林事業所で施工したのは大きい成果だと思ひます。床板の交換は他社でも施工していますが、接続ブロックの敷設を軌道会社で施工するの

は、館林事業所が初めてではないでしょうか。次年度工事では、上期に館林管内(川俣駅構内280号踏切)で、接続ブロックの交換を上下線で施工します。まずは、このブロック交換を成功させ、その先に控えている古利根切替、9月末に春日部切替を成功させましょう。

2025年度は、3年前に掲げたベストモデル『大規模工事で信頼される事業所』の集大成になる年です。館林事業所全員で、作業指揮者のレベルアップ、社員全員の声出し、重機オペレーターのレベルアップという目標を掲げて挑戦し、成果を出しましょう。宜しくお願い致します。

## 待ったなしの技術力の底上げ

館林事業所 担当所長 成田 公治

東武日光線の接続軌道敷設工事



2025年は最強寒波で幕を開けました。とくに日本海側に家族がいる社員は、心配事が尽きないことでしょう。大変な環境で生活している方々の心の支えになってあげてください。

2024年を振り返ると、会社全体で22件の事故事象を発生させています。22件と

いう数字をみなさんはどう感じますか？連休を除き平均すると1ヵ月に2件の事故事象を起こしてきたこととなります。これだけ多くの事故事象を発生させる会社に安心して仕事を発注する元請会社が存在すると思いますか？自社も最強寒波が襲来したような厳しい状況で新年のスタートを切っていることを認識しましょう。

事故には様々な原因と背後要因があります。その背後要因を紐解いていくと「気づき」が不足していたために起きた事故が圧倒的に多いです。では何故「気づき」が出来ないのでしょうか。おそらくは余裕の無い状態で現場の準備をしたか、現場で作業をしていたかのどちらかだと思います。何故、余裕が無いのでしょうか。私は技術力の低下が根源にあると分析しています。ここで言う技術力とは、各分野の作業効率をアップさせる知識のことで

1. 良好な仕上り状態にする知識、手順（軌工管、作責）
2. 様々な環境に対応できる重機作業（重機オペ、誘導）
3. 効率性を求めた道具の活用方法（作業員）

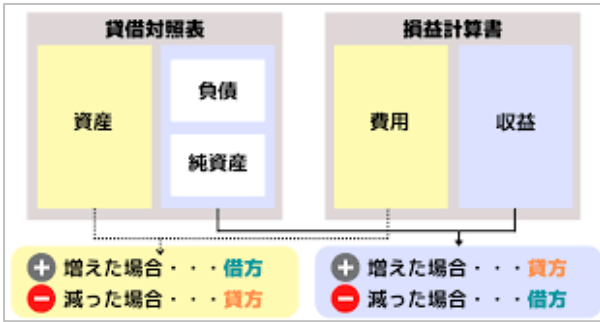
と、大きな分野で分けると、この3つになります。技術力の育成が疎かになっているのは社員のみなさんではなく、各事業所の所長に原因があると思います。今まで培ってきた1つか2つの作業パターンをベースに新たな工法へ挑戦することを怠り、安易に作業責任者に現場を任せしてきたのではないのでしょうか。まずは意識改革から始めなければ先へは進めません。大事なものは反省会をすることよりも、施工計画をみんなで協議し立案していくことではないのでしょうか。

最後になりますが、「安全」「技術」「品質」はすべて連動しています。私は、その中の「技術力の底上げ」に尽力することを2025年の決意表明とします。



## Transition～考えを変える～

課長 戸塚 孝一



昨年の社報で給料明細のデジタル化を目標としました。結果は4月下旬頃には配信サービス会社が決まり、運用の準備などを経て10月から電子給料明細がスタートしました。まだ開始してから3回しか処理を行っていないので毎月、処理方法の確認をしながら運用しているのが現状です。

旧本社だった北九州事務所を閉所し、早2年が経とうとしています。経理を引継ぎ税理士の先生と2人3脚で業務をこなしていますが、「素人に毛が生えた程度」しか知識が無いため、色々な面で先生のお手を煩わせていないか不安になります。急がずキャパオーバーにならない程度に時間をかけて知識を身につけたいと思います。

私自身の考え方を「一般事務職→経理事務職へ」これを今年の目標とします。

## コンプライアンス遵守に向けて

課長 人見 博之

凸冠事業所 令和7年1月～5月 凸冠事業所

### 新規・継続講習について

講習会では、最新の法規制に関する知識を習得し、安全・健康に配慮した作業を行うための講習を行います。講習内容は、最新の法規制に関する知識、安全・健康に配慮した作業の方法などです。講習会は、毎月開催されています。

講習日	地区	参加	講習予定日
2024年度	坂井 豊志	10名	2025/2/4～5
	西 雅也	10名	2025/2/5
2024年度	坂本 博志	10名	2025/2/5
	大友 博志	10名	2025/2/5
2024年度	井山 隆之	10名	2025/2/5
	野村 隆之	10名	2025/2/5
2024年度	藤田 隆之	10名	2025/2/20
	高田 隆之	10名	2025/2/20
2024年度	井山 隆之	10名	2025/2/25
	野村 隆之	10名	2025/2/25

講習費


昨年、自分の連絡ミスで医適2種の受検を失念するという事象を発生させてしまいました。これはユニオン建設様のコンプライアンスに違反する事象です。受検漏れに至った経緯ですが、いつも定例会議で講習会の受講日は周知してきましたが、この月は会議が開催されなかったことと当該の事業所にユニオン建設様からメールが届いているので確認しているだろうと思い込み、受検日の連絡をしませんでした。今後、このような受検・受講の失念が無いように医適・10条教育・各種講習会などの情報を月別でまとめ事業所ごとに月別講習一覧を会議資料に入れると共に、万が一

会議が延期となっても前月の20日ごろ事業所へメールし、受講日の3日前に事業所へ受講予定が入っているかの確認を行っていきます。今後はコンプライアンス遵守で受検・受講の失念が起きないようにしていきたいと思います。

## 2025年 機械化へ前進

課長 石丸 隆人

2021年から重機トラブルに対応する知識と対処方法の習得のため、軌陸重機をはじめ積載型移動式クレーンの脱出訓練など多くの作業員が参加して行ってきました。2022年からは各事業所で重機トラブルに対応できるスペシャリストを育成するため、メンバーを固定して重機緊急時のトラブル対応訓練を行いました。2023年からは対応力の裾野を広げるため、メンバーは固



定せずその様々な研修や訓練を実施しています。また、直近で発生したトラブルの検証や対応方法なども実施しています。

2022年4月から『搭乗する機械の月次点検は維新建設のオペレーターが行なう』を掲げ、事業所内で重機の月次点検を開始しました。軌陸バックホーを中心に重機オペレーターもしくは整備経験者など

が担当となり毎月実施しています。2023年からは軌陸バックホー限定ではあるが全事業所が月次点検を実施しています。2024年に入り軌陸クレーンと軌陸ダンプの自社内月次点検実施に向け本格的に研修を開始しました。事業所毎にクレーン・ダンプの違いはあるが、着実に自社内実施に向け点検能力は向上しています。

2025年4月から宇都宮事業所は軌陸ダンプ、小山事業所は軌陸クレーンと軌陸ダンプ、館林事業所は軌陸クレーンの月次点検を本格スタートしたいと思います。本来であれば、もう少し早く自社内での月次点検を開始したかったという気持ちはありましたが、月に1~2台の点検数では絶対的な経験値が稼げません。点検表に沿った点検はできるようになっていますが、ちょっとした不具合などを見たり触ったりする機会が殆どないため不具合その物を見てきた、対処してきたという経験が不足しています。そのため、『以前こういう不具合があったから、ここも見ておこう』というプラスαの確認意識に物足りなさがあります。しかし、この意識は他人から聞いたり、資料で見ただけではなかなか向上しないのが現実で、実際に経験すると自身の脳裏と言うか記憶に残り経験として蓄積されるものだと思っています。昨年12月には、宇都宮事業所において使用前に軌陸バックホーから油漏れを発見し、発生個所の特定から部品交換までを自分達で行うといったチャレンジもしており、少しずつではありますが確実に経験値も上がっています。

これからは実践により、経験値を稼ぎ点検能力と対応力を向上していき各事業所による月次点検を拡大していきます。

## 連絡欄